

地域の中核病院として 機能充実を進めます



病院施設の現状

市立総合病院の主な施設は、
本館（昭和45年建築）

地上6階・地下1階、

延べ面積11、793㎡

放射線棟（昭和54年建築）

地上2階・地下1階、

延べ面積3、964㎡

神経精神科棟（昭和55年建築）

地上2階

延べ面積3、226㎡

新館（昭和59年建築）

地上4階

延べ面積6、155㎡

平成9年度には新館屋上に教育
実習施設（延べ面積734㎡）
を増築

で構成され、教育実習施設などを
除く病院部分の面積は25、23
2㎡（1床当たりは50・8㎡）です。
近年、患者さんの療養環境改善
に対する高まりから病院の1床当
たりの面積は60㎡以上が標準に
なっており、全体的に面積が不足
している現状です。

また、増改築を重ねてきた結果、
機能的にも整合性のない個所があ
り、動線が複雑で長いなど患者さ
んにとって不便な施設となってい
ます。

さらに、本館は32年経過し設備

などが老朽化しています。修繕費
に多額の費用が続ぎ、冷暖房や診
療に必要なエネルギー確保にも支
障が生じているほか、耐震性が十
分に確保されていないなど多くの
問題を抱えています。

このため、患者さんからは、病
院でのプライバシーが保てない、
冬期は寒く風呂が狭いなど療養環
境が悪い、外来の待ち時間が長い
など多くの不満が寄せられていま
す。一方、医師などの医療スタッ
フからは、診療にあたる面積が不
足で診療上支障がある、動線が長
く診療活動が非効率、医学・医
術の進歩に対応できないなどの声
があがっています。

リニューアルの動き

市立総合病院では、この現状を
改善し患者アメニティの向上、地
域の中核病院として機能を果たす
ためには病院施設の抜本的な改善
整備が不可欠と判断しました。そ
こで平成8年「病院リニュアル
実施検討委員会」を設置。耐震診
断調査の実施、財源の検討、将来
の患者動向の検討、他病院の視察
など具体化に向けた検討を進めて
きました。

さらに、平成12年、広く市民の
意見を反映させるために医師会な